

授業科目 (ナンバリング)	疾病学 I (N4E231)			担当教員	隈 博幸		
展開方法	講義	単位数	1.5 単位	開講年次・時期	2年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブラーニングの類型
基礎科目(機能形態学・生物学等)を十分学修した上で、医療従事者として活動するために不可欠な医学的知識を理解できるようになるとともに、医療チームの一員として適切な医療を行うために、基本的な疾病ごとの概念、臨床症状、治療法、予後について学修し、薬剤師として適切な薬物治療を行うのに必要な各種疾患の成因、病態を部位別・疾患別に理解できるようになる。							①②③
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	(1)各種疾患の成因、病態を説明することができる。(2)各種疾患における治療法、特に薬物治療について説明することができる。(3)症候から疾患を推測することができる。				・定期試験 ・課題	90% 10%	
情報収集、分析力							
コミュニケーション力							
協働・課題解決力							
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<ul style="list-style-type: none"> <li>定期試験の成績を90%として、筆記試験を行う。なお、全講義時間の3分の1を超える欠席があった学生は、定期試験の受験資格を喪失する。また、内容の理解度を深めるために、必要に応じて講義中または講義後に様々な課題を課すことがあり、その成果について10%を基準として評価を行う。課題に関するフィードバックは、授業中に適宜行う。</li> </ul>							
授業の概要							
<ul style="list-style-type: none"> <li>講義を主体とし、別途配布するプリントに沿って講義を進める。また、内容の理解度を深めるために、必要に応じて講義中、または講義後にポートフォリオのレスポンスを用いて確認課題を課す。ヒトの臓器や器官の名称や基本的役割については「機能形態学」で履修するので、その復習を事前に行っておくことが望ましい。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、112.5分です。</li> </ul>							
教科書・参考書							
<p>教科書：別途プリントを配布する。</p> <p>参考書：カラーで学べる病理学（ヌーヴェルヒロカワ）、薬学コアカリ対応/病態・薬物治療概論（丸善）</p> <p>指定図書：カラーで学べる病理学（ヌーヴェルヒロカワ）</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>薬学教育モデルコアカリキュラムの治療学系分野における一般目標、到達目標が達成でき、来るべき共用試験・国家試験で合格できる実力を培ってもらいたい。そのための自学学習（予習・復習）は必須である。また、講義プリントは随時配布するので、できるだけ講義には出席し、やむをえず欠席する場合は翌週までに必ず講義プリントを入手すること。</p> <p>※オフィス・アワー：試験期間中等特別な場合を除き、在室中はいつでも訪問可能（薬学研究棟 P210）である。</p>							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習	到達目標番号*
1	序論 血液・造血器疾患(1)	疾病とは 血液の組成と役割	機能形態学の関連分野 (血液・造血器)について 復習し、理解しておくこと	578, 589, 741, 743
2	血液・造血器疾患(2)	各種貧血の病態生理	配布プリントを予習・復習 すること	643
3	血液・造血器疾患(3)	白血病・悪性リンパ腫の病態生理	配布プリントを予習・復習 すること	645, 713
4	血液・造血器疾患(4)	その他の血液疾患(DIC、多発性骨髄腫他) の病態生理	配布プリントを予習・復習 すること	627, 641-42, 644
5	生殖器・乳腺疾患	生殖器・乳腺疾患の病態生理	機能形態学の関連分野 (生殖器)について復習 し、理解しておくこと	651-53, 695, 712, 725-27
6	運動器系(1)	骨・関節・筋肉の形態と機能 骨粗しょう症の病態生理	機能形態学の関連分野 (骨・関節・筋肉)につい て復習し、理解しておく こと	631-32
7	運動器系(2)	骨・関節・筋肉疾患の病態生理	配布プリントを予習・復習 すること	630, 633, 721
8	感覚器疾患(1)	眼・耳鼻咽喉の形態と異常	機能形態学の関連分野 (眼・耳鼻咽喉)について 復習し、理解しておくこと	678-681 682-83, 694
9	感覚器疾患(2)	耳鼻咽喉・皮膚の形態と異常	機能形態学の関連分野 (皮膚の構造)について 復習し、理解しておくこと	682-83, 694 626, 684-87
10	肝胆膵疾患(1)	肝機能と肝炎・肝硬変の病態生理	機能形態学の関連分野 (肝・胆・膵)について復 習し、理解しておくこと	659-60, 664, 661, 705
11	肝胆膵疾患(2)	胆石症・膵炎の病態生理	配布プリントを予習・復習 すること	662-63, 693
12	免疫疾患の基礎	抗体の産生・構造、アレルギーの基礎	免疫学Ⅰの関連分野に ついて復習しておくこと	621-25, 627-28
13	免疫疾患 (リウマチ・膠原病)	関節リウマチ、全身性エリテマトーデス等 免疫系疾患の病態生理	免疫学Ⅰの関連分野に ついて復習しておくこと	621-25, 627-28
14	感染症	敗血症、溶連菌感染症、その他感染症の病 態生理	微生物学の関連分野に ついて復習しておくこと	475, 692, 700-01, 704, 706
15	老人と小児の疾患	老化、高齢者特有の疾患 小児の成長・発達、小児疾患	機能形態学の関連分野 について復習しておくこ と	502-03, 629
16	定期試験			

注) 上記の第1回～第15回は、授業の概要を示したもので、講義の順番は変更される場合があります。

\*到達目標番号と到達目標の対応は、巻末のコアカリ SB0 番号／項目対応表を参照して下さい。